

	<p>2010年9月15日 第80号 発行：いたばし水と緑の会 事務局</p> <p>年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/ E-mail : mizumidori@nifty.com 〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124</p>
---	---

コムラサキ(蝶)溜池に飛来

雨上がりの8月9日朝お気に入り散歩コースに出て、崖線から溜池に着き美術館前の自然池をひと眺めしたとき、広場に赤茶色のチョウが飛んできて地表に降り、場所を変え飛んだりしていた。中型のどこかで見たとんでもあるが、初めてのよう蝶だった。次にこの蝶が止まったところには驚いた、未だ水から出て間もない色つやをしたザリガニが横たわっている*傍だった。蝶はザリガニにすり寄り口吻(小アゴ・吸管)を伸ばして体液を吸っているようだった。近づいても飛んで逃げようとはせず、何枚か写真を撮った(添付)キタテハやツマグロヒョウモン()などに一寸似ていて、時によって光線の具合で翅の色が紫に光る部分がある。昔はクヌギの樹液に集まっているのをよく見たオオムラサキ(国蝶)とは大きさや紫色の模様が違うようだ。



家に帰って図鑑や辞書を眺めインターネットで索引して、タテハチョウ科のコムラサキらしい

ことを突き止めた。後日、水と緑の会で何時も色々教えて頂いている釣巻さん、坂本さんと瀬田さんにメールで写真を送って見ていただき、釣巻さんからコムラサキの で、貴重な生態写真だとのコメントを頂戴した。食草が柳であることから川辺に住むことの多い蝶で珍しい蝶ではないが、初めて見た蝶だった。溜池の縁に大きなシダレヤナギがあるところから、飛翔力は強いと言われているから、荒川の方から飛んできて、立ち寄ったのかもしれない。

コムラサキについて今回調べた結果を以下に纏めてみた。(猪鼻昭二)

名前:コムラサキ(小紫蝶)、タテハチョウ科コムラサキ亜科

名前の由来は翅が紫に輝き、オオムラサキより小さいことから(翅が紫色に輝くのはオスだけ)

学名: Apatura metis

食草: ヤナギ科ノ植物全般(各種の柳・シダレヤナギ・ポプラ)

オスだけが地面に降りたり、樹液・動物の死体や糞に集まる

繁殖: 年2回

越冬: 幼虫で柳の木などの樹皮の割れ目

分布: 南西諸島を除く全国、東欧からアジアにかけてシベリアを除き広く分布、大陸にはよく似た種が数種類分布する。

*ザリガニは雨の後など地面が湿っているときに、水から上がって住処を替えようとする習性があるようで、池から這い出たところを殺されたものらしい。



公園の樹林はどうなっているか

公園の樹林には共通する点があり、気になっていました。

ササや低木が刈られ、林内の落ち葉も清掃されて、下が透けていること(ウグイスなど藪を好む野鳥や、樹林地にすむ昆虫は少ない)

ふかふかした腐葉土はなく、土が流出して固い地面が露出し、木の根が浮き上がっていたりすること

どんぐりの芽生え、若木がないこと(=次世代に活躍する若い木が育っていないこと)

5月4日、一条克也さん(森林インストラクター、樹木医、ビオトープ管理士)にお願いし、成増の公園樹林の観察会を行い、お話を聞きました。

下草や低木を刈ると

公園の樹林地は低木もササなどの下草も刈り取るので、雨粒は地面に直接当たります。木から落ちる雨粒は大きく、雨の圧力は意外に大きいのだそうです。雨の圧力によって土が流れ、表土



がなくなるそうです。確かに公園の木の根は浮き出ています。急斜面の地面はつるつるすべりやすくなって、子ども達が喜んですべり遊びをします。木道や遊具をつかったあとはもっと悲惨です。工事によって地面は荒れ、人が利用すればするほど、地面は荒れる。最悪の例は成増5丁目公園です(写真左)。一条さんもこんなすごいのは見たことがない、とか。



**写真上：成増5丁目公園。木の根元からこの状態になるまで土が流出したことになる。
写真左：成増4丁目緑地。土が流出して、木を支えるために根が板状に太くなっている。**

話は逸れますが、このような根っこを西台公園で見たことがありました。西台公園には大変人気のアスレチック遊具がありましたが、廃れ、やがて遊具は撤去されました。あとに残った周辺の樹木は、骸骨のように浮き出た根

を曝していました。アスレチック遊具の設置工事、下草の刈込み、立ち入りと踏みつけなど林床を傷める無意識の破壊的行為によって地表から厚さ30cm程の土が失われてしまったわけです。骸骨のような根っこの木は全部切り倒され、片付けられて今は跡形もありませんが。

新しい公園整備計画ではまたアスレチックができるようです。アスレチックに執着する人や、森を守るよりもっと活用したい人は多いようです。

表土を保護する下草や落ち葉をなぜ取り去るのか

草や低木がボサボサ生えているのが汚いという価値観が優勢らしく、当然の管理としてアオキやムラサキシキブなどの低木を切り、下草(ササなど)やシラカシやコナラなどの芽生えを刈り、落ち葉を清掃してきました。

糸久前みどりと公園課長によると、「もともと二次林(雑木林)だったのだから雑木林としての手入れをするのは当然だ」と言うことでした。公園の樹林を見るとほとんど一律に雑木林的な管理(低木下草を刈り、落ち葉を掃除する)がされていますが、地形(急斜面が多い)や樹林地の現状と成り立ち、人の出入りによる影響も考慮して維持管理してほしいと思います。



成増4丁目新田の森（成増4-24）

以前（つまり公園になる前）は手前側には今もあるケヤキの大木とササが生い茂っていたが、平成20年度に公園整備された。特別緑地保全地区として森を守るためにフェンスで閉鎖されている。が、徹底的に下草が刈られ、写真で見るといつ行ってもほとんど草が生えていない。10年後にこの地面はどうなるのか。さらに土が流れて根が浮き出てくるのか。



成増4丁目新田の森 西側

西側は、常緑樹が多く、ササ等はほとんどない。地面に落ち葉がたまっていて、したがって、土は流出しない。シュロが数株あったが、これは早めに切った方がよいそうです。

土の流出をストップさせ、つるつるの地面をなくし、森を再生するためにどうすればよいか

一条さんによると「成増にはアカガシもあり、シラカシは板橋の潜在植生なので、地域の常緑ガシやコナラのどんぐりを子ども達にも手伝ってもらって育て、ある程度大きくして植えるとよくだらう」とのこと。これまでせつせと管理者が切っていたのがほとんどはシラカシ。つまり全く逆のことをしなさい、というのですからエーッ！と驚きます。

実生（木の子ども）を植えるときには、土留め柵をつくり、その上（山側）の際に植える。土留め柵の上（山側）に移植した木の根が張って、土や落ち葉がたまれば、自然の実生もでてくるでしょう。樹林地で落ち葉が貯まっているところの土は流出しないそうです。

森の世代交代 木を切るとすれば

自然の森では大きい木が枯れて倒れると、光が射し込み、大木の陰で成長できなかった若い木

が勢いよく育ち世代交代していく。雑木林として人為的に世代交代を促していくには、最も大きい木から切るのが順番なのに、現実には大きい木を残して若木を切るので世代交代は当然無理なのだそうです。多くの公園の樹林は、下草や次世代の実生を繰り返し刈り、落ち葉を掃除するために、日陰で育つササさえも生えてこない状況になっています。私は個人的には大きい木を切るのは惜しいと思いますが、大きい木を残すのであれば、間伐したり、下草を刈ったりせずに現状のままにしておくのが安定してよいのでしょうか。

森の管理を行政まかせにせず、市民で見守る

樹林内のシュロが目につきました。温暖化やヒヨドリが実を食べては種をまき散らしている等によって板橋区でも増えています。放っておくとシュロの森になりかねないので、早めに切った方がよいこと。林縁に多いヨウシュヤマゴボウ(外来種)も同様である。

立派な木でも枝にキノコが生えていたら、その枝はいずれ枯れるし落下すると公園などでは事故にもなりかねないので、早めに管理者に連絡して切ってもらおう。

成増1丁目向新田の森は、私達の意見も聞き入れて整備され、閉鎖管理されています。中には移植した若木などが育ち、下草(ササ)が茂っていて、青々として最高にいい感じです。



写真左:成増1丁目向新田の森、フェンスで囲われ中に入れない。狭いが頭上も横も下も緑で、清々しい。平成20年度開設以来、人も踏み込まず、まだ一度も刈り込み等を行っていないので、ササが一面に生えている。ササをかき分けると小さな実生(木の子ども)が見える(写真右)。実生(次世代の木)を育てるには、ササ刈も必要。実生の周囲だけ刈ってもよい。

しかし下草に覆われていると新しい木の種が芽生え育ちにくいので、若い木を育てるならササも刈る。部分刈りや、ツボ刈りと言って実生の周囲だけ刈ってやれば大変な作業ではない。

公園や樹林地の管理はもっぱら業者委託で、行政は全部の樹林を把握できません。私達が見る限り、委託業者は常緑樹を切り、低木を切り、地面を削らなばかりに下草を刈り、落ち葉を集めて処分しています。いい森にしたかったら、ドングリを植え、自分たちで管理することを考えなさい、と言われました。

森の管理なんて体力がいりそうで、まだへっぴり腰ですが、管理者といふ関係をつくりながら勉強していきたいと思っています(坂本 郁子)

西台不動尊で見た「ヒバカリ？」

見なれないヘビの写真を紹介します。場所は西台不動尊。細くて小型のヘビです。首のところに白い筋があり、インターネットで調べると幼体ではなく「ヒバカリ」というヘビらしいと思います。

3年前に中台に越してきて、西台不動尊で3回程チラッと小さなヘビを見かけました。また、西台公園の前の道路で、小さなヘビの死骸を3度見ました。



(2009/10/11、2010/6/7、2010/8/1) いずれも首に白い筋があり、写真を撮りました。

8月15日、はじめて生きたヘビの撮影に成功しました。ヒバカリというのは、「噛まれたら命はその日ばかり」と言う意味でつけられたそうですが実際は無毒。ペットとして飼う人もいるらしい。西台不動尊に住むヒバカリは、不動尊のヌシなのでは!!それとも捨てられたペットが住み着いたのか???.....(坂本 郁子)。(多分自生種、北区にも生息)

活動・観察記録(7月～8月)

7月17日(土)ミニトンボ池水温25.5、COD8以上。水質かなり悪い。

バッタ広場繁茂したササ刈り取り

ニイニイゼミ抜け殻(不動の滝)、ニイニイゼミ(鳴き声)、アカボシゴマダラ、ナガコガネグモ、キチョウ、スズメガ(幼)、タマムシ、ヒカゲチョウ、ベッコウハゴロモ、アカハネナガウンカ、ウズラカメムシ、トカゲ(カナヘビ)卵

7月25日(土)バッタ広場ササ刈

ササを刈り続ける。イナゴ。在来の植物で増えたもの、アキノノゲシ、ヌルデの大きな株のあとにヘクソカズラが群生、ヨウシュヤマゴボウの大株のあとにチドメグサが群生。

8月28日(土)バッタ広場の主にササ刈(かなり刈った。気のせいかなササが減ったような?)。ヌスビトハギ(花)、ガガイモ(花)、外来のキク科植物(ほとんどがヒメムカシヨモギ)大いに成長する。セイタカアワダチソウは抜き取りの効果もあって今はさほど目立たない。アオオサムシのきれいな死骸。

ミニトンボ池は内外草刈りされていた。湧水の溝の堰が撤去されたため、湧水はほとんど流入しなくなっている。小さなたまり水は夏枯れで水面一面にプランクトンの膜。

二ホンミツバチの巣を見に行く。赤塚5丁目の森公園に数個体のカブトムシ死骸(食べられた跡もなくなぜ?、まさか暑すぎて死んだ???)

活動のお知らせ

運営委員会は原則として第4土曜日の作業・観察会の後に赤塚ため池公園そばのラーメン「しらかば」で行い、報告や活動内容などを相談します。どなたでもお気軽にご参加ください。午前中の作業の状況で時間が多少ずれることがあります。雨天で作業が中止の場合も運営委員会は開きます。わからないときは、坂本(090-4618-1295)に御連絡下さい。

9月運営委員会： 9月25日(土) 12:30~13:30

10月運営委員会 10月23日(土) 12:30~13:30

会報の印刷・発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく

日時：11月20日(土) 12:30~

変更する場合もあるので、事務局にお問い合わせ下さい。

活動の問い合わせは事務局瀬田(3969-7124)まで

会では赤塚城址周辺で、私たちが作ったピオトープを中心に自然の変化を観察し、ゴミ拾いや、ピオトープの環境整備を行っています。観察会は原則として雨天も実施します。

活動日は毎月第3、第4土曜日です。軍手、タオルなど、汚れてもよい服装で。カメラ、ルーペ、双眼鏡、図鑑もあるとよい。雨の場合は作業のかわりに全体の観察とゴミ拾い。

9月25日(土) 10:00~12:00 バッタ広場ササ刈等と生き物観察

10月 9日(土) バッタ広場植生調査と生き物観察

10月16日(土) 10:00~12:00 バッタ広場ササ刈等と生き物観察

10月23日(土) 10:00~12:00 バッタ広場ササ刈等と生き物観察

11月20日(土) 10:00~12:00 バッタ広場ササ刈等と生き物観察

集合場所：赤塚トンボ池(板橋美術館そば)

成増4丁目緑地調査(植生調査)(日程が変わる場合もあるので事務局まで連絡下さい)

10月2日(土) 10:00~12:00 東上線成増駅集合

11月6日(土) 10:00~12:00 東上線成増駅集合

成増4丁目緑地で区画を決めてその区画の植生を毎月調査・観察しています。ついでに成増にある公園になった樹林地の観察も行います。(連絡先)坂本090-4618-1295

穴塚の里山日帰りバス研修ツアー 日時:10月30日(土) (詳細は事務局まで)

あなたも会員になってください(年会費2000円:振込先は表紙に記載)

いたばし水と緑の会の活動はすべて会員の会費によってまかなわれています。主な用途は、会報郵送料、印刷費、ピオトープ維持管理のための資材費、コピー代などです。